

VII

熟議協力者セミナーの概要

(全国生涯学習ネットワークフォーラム2012プレ企画)

開催日 平成24年10月13日(土) 13:00~18:00

会場 宮城教育大学萩朋会館2F大集会室(宮城県仙台市)

趣旨・概要

フォーラム2012の各分科会(ICT分科会を除く)において実施する熟議の円滑な運営及び各分科会間のネットワークづくりを目的として講習会を実施した。

宮城分科会、福島分科会及び岩手分科会の学生を中心とした熟議ファシリテーター等の協力者49名が集まり、ファシリテーターに必要な基礎知識・スキルの習得に努めた。

実施内容

(1) 挨拶・趣旨説明

上月 正博氏

(文部科学省大臣官房審議官(生涯学習政策局担当))



(2) 講演

長尾 彰氏

(NPO法人エデュケーショナル・フューチャーセンター代表理事)





(3) 模擬熟議

7名程度のグループに分かれて各分科会のテーマで熟議した。

※各分科会のテーマ

宮城分科会「つながりを持った教育復興、復興教育と地域創造」

福島分科会「若者達が活躍する『持続可能なまち・地域・社会』」

岩手分科会「まちづくりと人材養成」

まとめ

■「熟議」とは

多くの当事者による「熟慮」と「討議」を重ねながら政策を形成していくこと。具体的には、政策を形成する際の、下記のようなプロセスのことを言う。

- ①多くの当事者（保護者、教員、地域住民等）が集まって、
- ②課題について学習・熟慮し、討議をすることにより、
- ③互いの立場や果たすべき役割への理解が深まるとともに、
- ④解決策が洗練され、
- ⑤個々人が納得して自分の役割を果たすようになる、

■熟議ファシリテーターの心得

- ・沈黙を怖がらない。無理やり参加者から意見を聞き出そうとしないこと。
- ・熟議でやってはいけないこと、参加者への“強制”と“矯正”。結論を誘導せずに、様々な考えを引き出すこと。
- ・何について話をしているのか、軸をぶらさないようにすること。軸がぶれている参加者には、何について話をしているかを伝え、ぶれている発言をコントロールすること。
- ・休憩中でも参加者を客観的に観察して、参加者同士のコミュニケーションを円滑にすること。
- ・熟議の発表では、議論をまとめて「集合知」にするのではなく、「どのような話し合いがあったのか」の結論に至るまでのプロセスを発表すること。

